

 住友金属鉱山

2021年度決算 経営戦略進捗状況説明会

2022年5月18日

代表取締役社長
野崎 明



MINING THE FUTURE

目次

- I 重要課題の振り返り
- II 2022年度展望（トピックス）
- III 2021年度業績および2022年度業績予想の概要
- IV 中長期戦略
- V 計数・資料編

目次

I

重要課題の振り返り

II

2022年度展望（トピックス）

III

2021年度業績および2022年度業績予想の概要

IV

中長期戦略

V

計数・資料編

1. 2021年度総括 ① 安全に対する取り組み

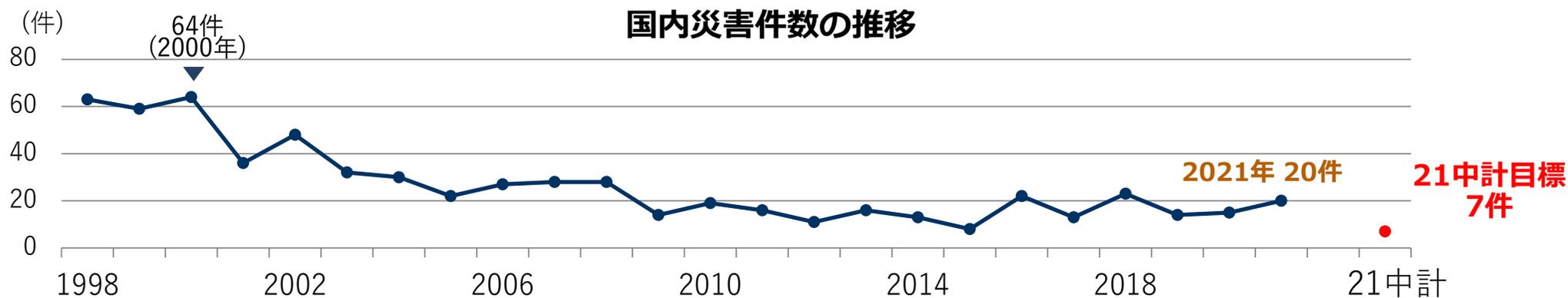
《国内社員災害》 18中計目標 5件 以下 ➡ 21年実績 20件

「重篤災害」（休業3ヶ月以上）の防止に重点
加えて「繰り返し災害」の防止に注力

21中計期間目標

- ✓ 国内外社員・協力会社 重篤災害**ゼロ**
- ✓ 国内社員災害 **7件/年**以下
- ✓ 海外事業場社員災害 **1件/年**以下

国内災害件数の推移



※ 繰り返し災害：この20年間 SMMグループ内で発生した災害の再発

1. 2021年度総括 ② 生産販売/大型プロジェクト

生産・販売

◆資源・金属

- ✓一部海外拠点でコロナ影響、自然災害（台風）等の影響による減産があったものの、生産・販売はおおむね順調に推移

◆材料

- ✓顧客からの需要は旺盛、多くの製品で能力いっぱいでの生産を継続

大型プロジェクト

- ✓2021年10月に**シエラゴルド銅鉱山**の売却を決定（ポートフォリオ入れ替えの一環）
➡ 2022年2月にクロージング
- ✓2022年4月に**ポマラプロジェクト**の事業化検討中止を決定
- ✓**ケブラダ・ブランカ2プロジェクト**、**コテ金開発プロジェクト**は順調に進捗
- ✓**電池材料増強**：新工場建設を2021年7月に公表
2022年5月1日付で住友大阪セメント株式会社のLFP材料事業を譲受

1. 2021年度総括 ③ 業績・配当 / キャッシュフロー・財務体質

業績・配当

- ◆ 金属価格上昇、円安の追い風に加え、シエラゴルダ鉱山の売却益計上もあり
過去最高の売上高（1兆2,591億円）、利益（税引前利益:3,574億円）を計上
➔年間配当額（301円/株）も過去最高に
- ◆ 材料事業では過去最高の276億円の利益を計上
➔長期ビジョン目標250億円に初めて到達

キャッシュフロー・財務体質

- ◆ 利益好転に伴い、安定した財務体質を継続
- ◆ ポマラプロジェクトで見込んでいた投資支出は、新たなプロジェクトに向けていく

Ⅱ. 2022年度展望（トピックス）

I

重要課題の振り返り

Ⅱ

2022年度展望（トピックス）

Ⅲ

2021年度業績および2022年度業績予想の概要

Ⅳ

中長期戦略

V

計数・資料編

1. 世界経済

2022年度展望（トピックス）

各国の金融・財政政策の効果や新型コロナウイルスワクチンの普及を受け一定の拡大が見込まれるが、下振れ要素が多く不透明感が増している

《下振れリスク要因》

◆ロシアによるウクライナ侵攻の長期化

◆エネルギー価格高騰

（当社2022年度業績予想には資源・製錬で2021年度比約▲150億円の影響を織り込み済み）

◆世界経済の減速

◆半導体等の産業用部材・物資の不足

◆新型コロナウイルスの再拡大、中国大都市部でのロックダウン

IMF予想 世界経済成長率

2020年	2021年	2022年
実績	実績	2022年4月予測
-3.1%	+6.1%	+3.6%

2. 金属需給見通し

2022年度展望（トピックス）

《銅》需給は緩和方向

- ◆供給 銅鉱山はコロナ影響を脱して新規・拡張案件が寄与し増産
製錬能力も高い伸びと見込む
- ◆需要 ロシアによるウクライナ侵攻、
中国主要都市ロックダウン等の影響により
消費の伸びは抑制されると見込む

✓ ファundamentalsは銅需要に追い風
(世界的な脱炭素、クリーンエネルギー、EV化、等)

Cu	ICSG予測		
(kt)	2020 21/10発表	2021 22/5発表	2022 22/5予測
Production	24,510	24,825	25,883
Usage	24,989	25,264	25,742
Balance	-479	-439	+142

《ニッケル》需給は緩和方向

- ◆供給 インドネシアNPIを中心に大幅に増加
- ◆需要 中国・インドネシアのステンレス用途が堅調
のほか、世界各地で電池向け需要が増加も、
供給量の伸長が大きい。

✓ 最大の消費国である中国のコロナ影響長期化で需要減退の可能性

Ni	INSG予測(Apr 2022)		
(kt)	2020	2021	2022
Production	2,490	2,608	3,082
Usage	2,390	2,776	3,015
Balance	+99	-168	+67

3. 金属価格前提

2022年度展望（トピックス）

《銅》 \$9,000/ t （2022/4月平均：\$10,183/ t）

- ◆ 需給は緩和方向。ドル高も弱材料
- ◆ ウクライナ情勢が需給に与える影響は軽微

《金》 \$1,750/toz （2022/4月平均：\$1,934/toz）

- ◆ 米金融引き締めによる金利高・ドル高は弱材料。
- ◆ ただし、世界経済の不確実性から底堅さあり。

《ニッケル》 \$9.5/lb （2022/4月平均：\$15.10/lb）

- ◆ 需給は緩和方向。しかし
 - ✓ 供給) ロシアはニッケル地金生産の約1割を占める一大生産国
 - ✓ 需要) 最大需要国である中国のコロナ影響（ロックダウン等）は未知数

2022年4月 ポマラプロジェクトの事業化検討中止を決定

- ◆スケジュールを重視するパートナーとの見解の相違が顕在化
 - ✓コロナ禍の下で検討が長期化する中、他社との交渉を選択される事態に
 - ✓今後は保有するリソースと時間を、並行して進めてきた他のニッケル鉱源探索プロジェクト、新規プロジェクトの検討に充当
 - ✓電池材料等、他の製品への影響は短期的には発生せず
長期的には、他の新規プロジェクト等でのカバーを目指す

次期プロジェクトの探索

業界ネットワークを活かした未開発案件ニーズの発掘
当社技術を活用した既存プロジェクトとの協業による原料確保



- ✓ **HPALに加えて、当社が培ってきた湿式/乾式製錬技術の組み合わせ**
 - ・ MS（硫化物）に限定せず、MHP（水酸化物）の生産・処理を検討
 - ・ 当社技術を活用した難処理鉍プロジェクトの開発
- ✓ **リサイクルを含めた3事業連携（ニッケル-電池）のバリューチェーン強化**



当社の強みを最大限に活かしたプロジェクト選定・遂行

5. 繰り返し災害の削減

2022年度展望（トピックス）

《21中計 安全への取り組み》

「重篤災害」（休業3ヶ月以上）の防止に重点、加えて「繰り返し災害」の防止に注力

会社としての施策推進に加えて、
労使間で「労使共通の年間目標達成に向けて全従業員が一体となつて取り組み、既に掲げた目標、その実現のための施策を労組も強力に後押しすることにより、その実現を喜び合う新たな文化を醸成していくこと」を確認

《取り組み対象範囲》 国内SMMグループ全拠点+国内協力会社

《目標》 「繰り返し災害の削減」（国内全拠点 8件/年以下）

《取り組み期間》 2022年5月～2023年4月の12ヵ月を1年として、
2025年4月までの3年間

※ 繰り返し災害：この20年間 SMMグループ内で発生した災害の再発

Ⅲ. 2021年度業績および2022年度業績予想の概要

I 重要課題の振り返り

II 2022年度展望（トピックス）

III 2021年度業績および2022年度業績予想の概要

IV 中長期戦略

V 計数・資料編

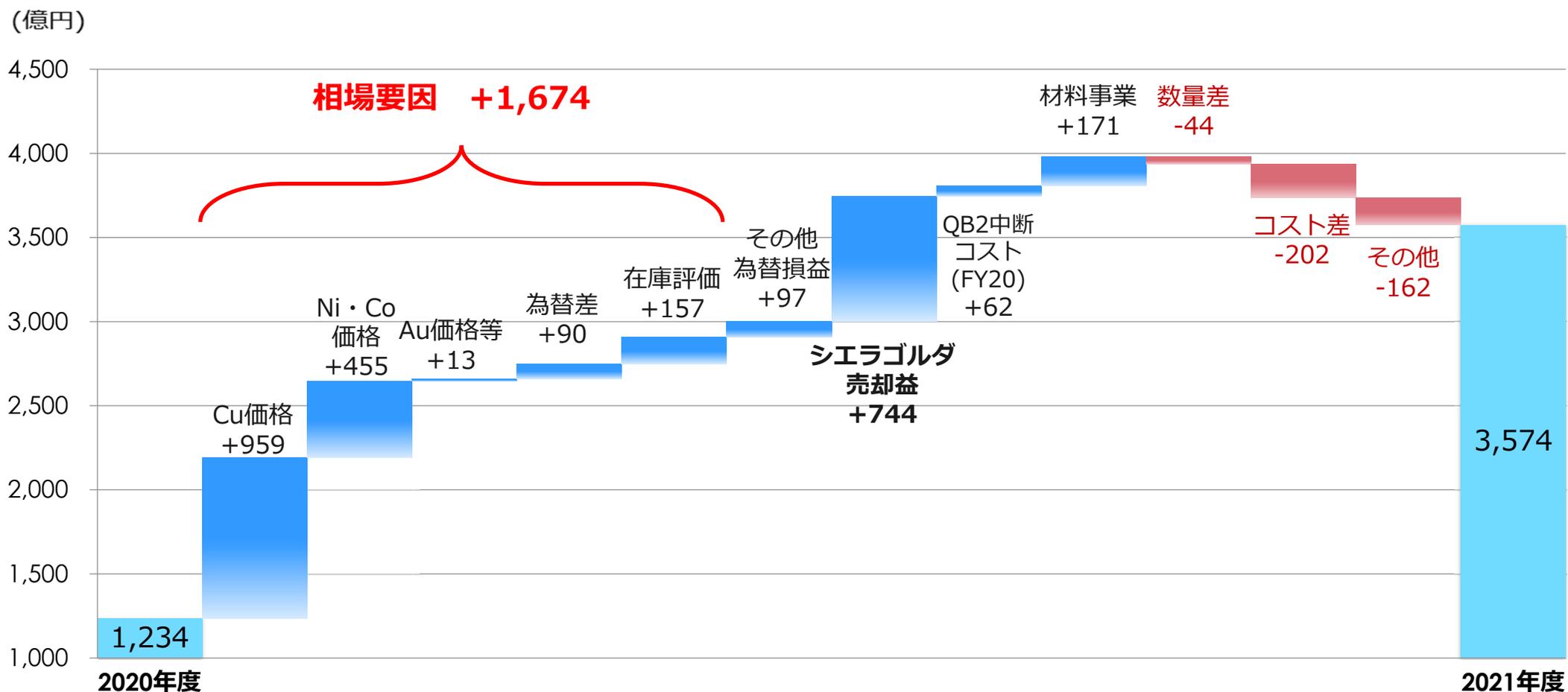
1. 業績推移（2017年度～2022年度予想）

(億円)		国際会計基準【IFRS】					
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度(予想)
売上高		9,297	9,122	8,519	9,261	12,591	13,310
税引前損益		1,083	894	790	1,234	3,574	1,940
内 持分法投資損益		123	-49	62	87	575	390
セグメント利益	資源	580	473	379	631	2,085	990
	製錬	478	409	482	530	1,148	860
	材料	71	138	53	105	276	100
	その他	-74	-20	-9	-28	-9	-20
	調整額	28	-106	-115	-4	74	10
親会社の所有者に 帰属する当期利益		902	668	606	946	2,810	1,370
銅 (\$/t)		6,444	6,341	5,860	6,879	9,691	9,000
ニッケル (\$/lb)		5.06	5.85	6.35	6.80	9.35	9.50
金 (\$/toz)		1,285	1,263	1,462	1,824	1,818	1,750
コバルト (\$/lb)		30.64	31.64	15.76	16.62	27.46	30.00
為替 (¥/\$)		110.86	110.92	108.74	106.07	112.39	120.00

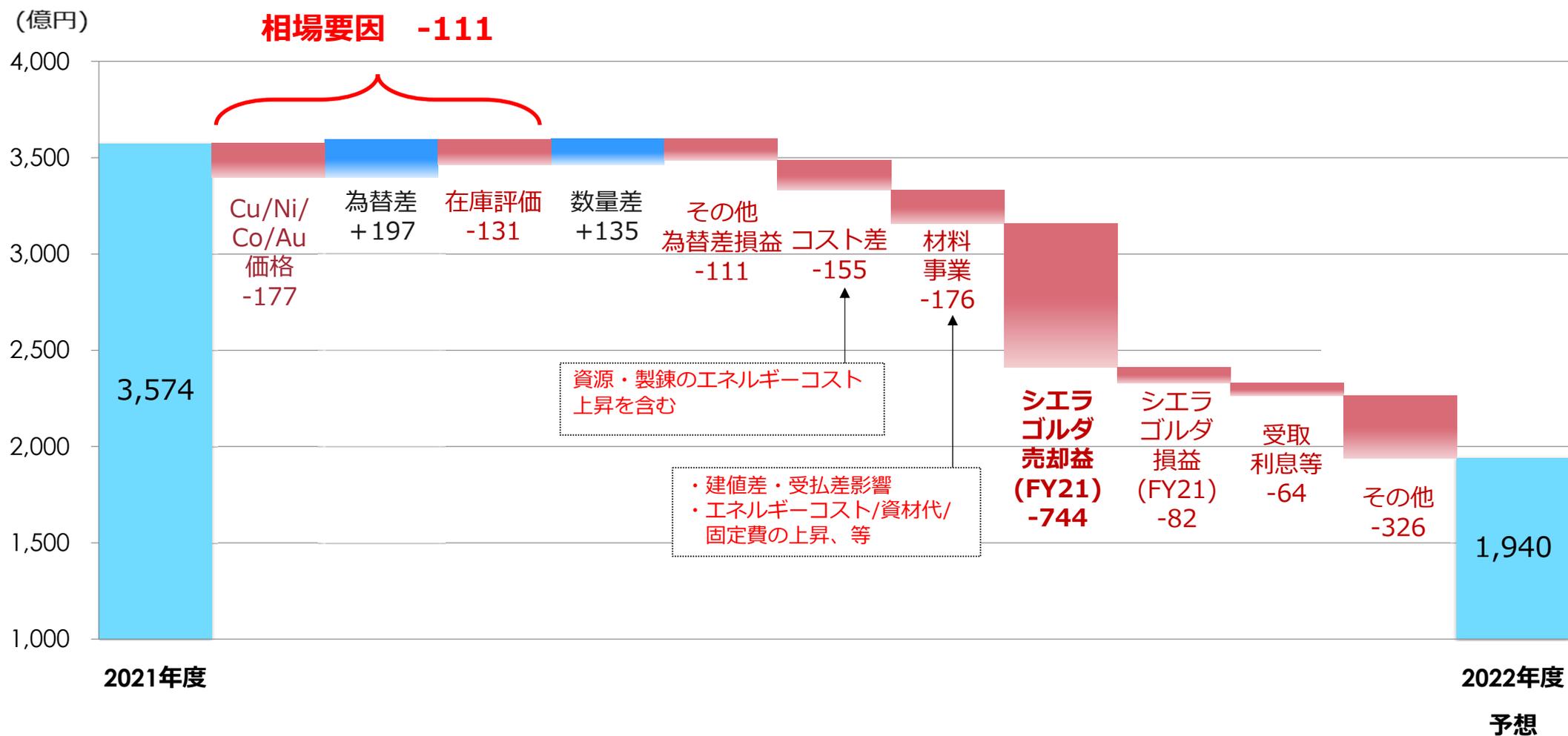
2. 2021年度業績および2022年度業績予想

(億円)		2021年度実績 (A)	2020年度実績 (B)	増減(A)-(B)	2022年度予想(C)	増減 (C)-(A)
売上高		12,591	9,261	+3,330	13,310	+719
売上総利益		2,578	1,509	+1,069	2,220	-358
税引前損益		3,574	1,234	+2,340	1,940	-1,634
内 持分法投資損益		575	87	+488	390	-185
セグメント利益	資源	2,085	631	+1,454	990	-1,095
	製錬	1,148	530	+618	860	-288
	材料	276	105	+171	100	-176
	その他	-9	-28	+19	-20	-11
	調整額	74	-4	+78	10	-64
親会社の所有者に 帰属する当期利益		2,810	946	+1,864	1,370	-1,440
銅 (\$/t)		9,691	6,879	+2,812	9,000	-691
ニッケル (\$/lb)		9.35	6.80	+2.55	9.50	+0.15
金 (\$/toz)		1,818	1,824	-6	1,750	-68
コバルト (\$/lb)		27.46	16.62	+10.84	30.00	+2.54
為替 (¥/\$)		112.39	106.07	+6.32	120.00	+7.61

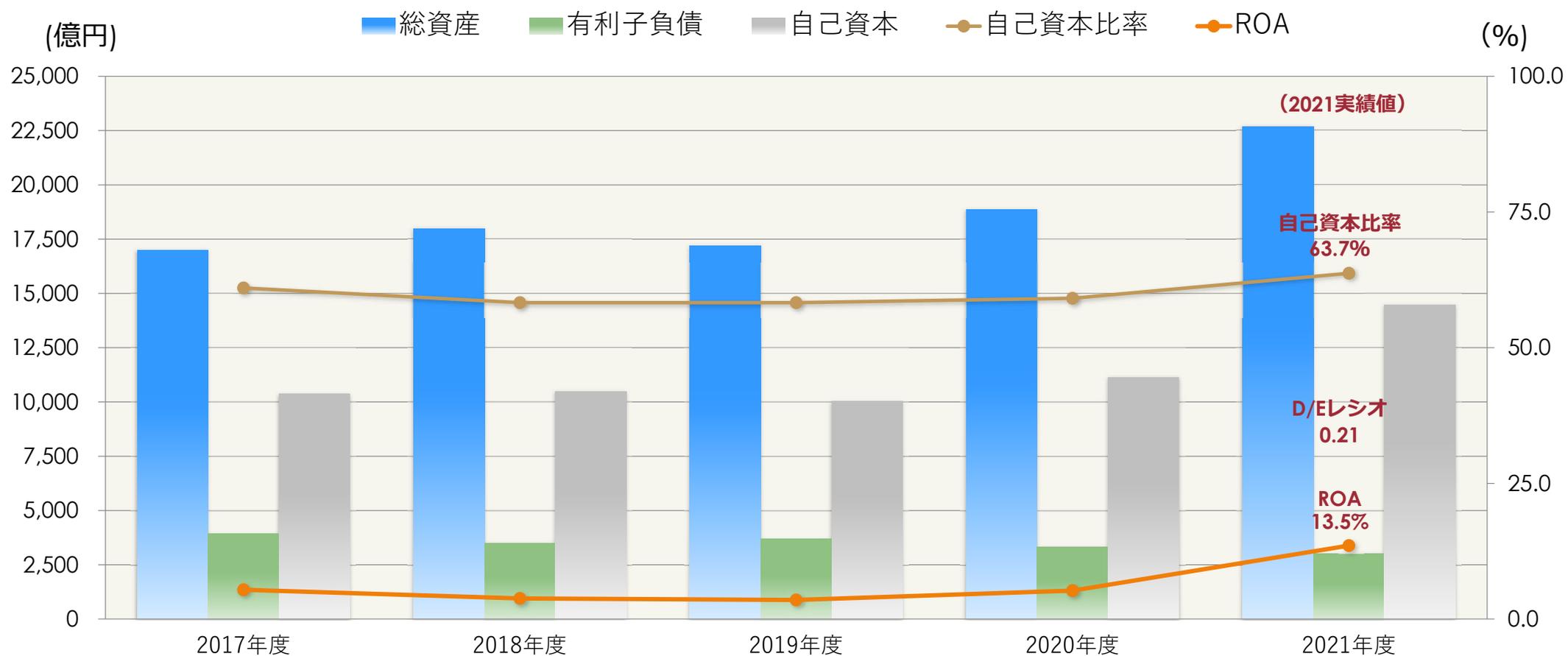
3. 税前損益分析 2021年度実績vs2020年度実績



4. 税引前損益分析 2022年度予想vs2021年度実績



5. 財務状況の推移

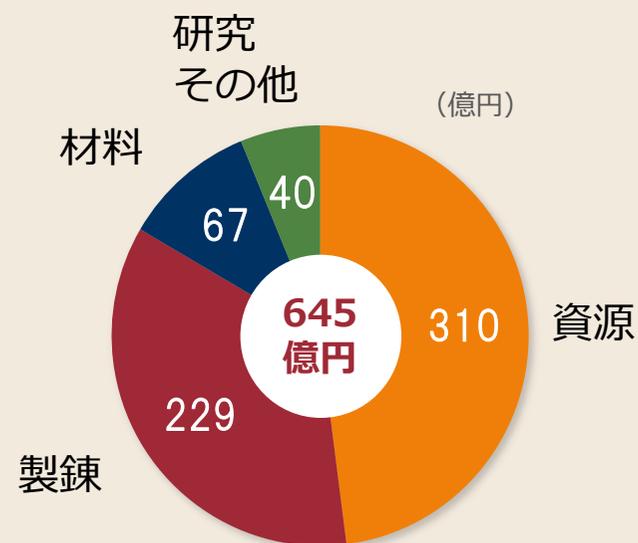


6. 設備投資実績（2021年度実績vs2021年度計画）

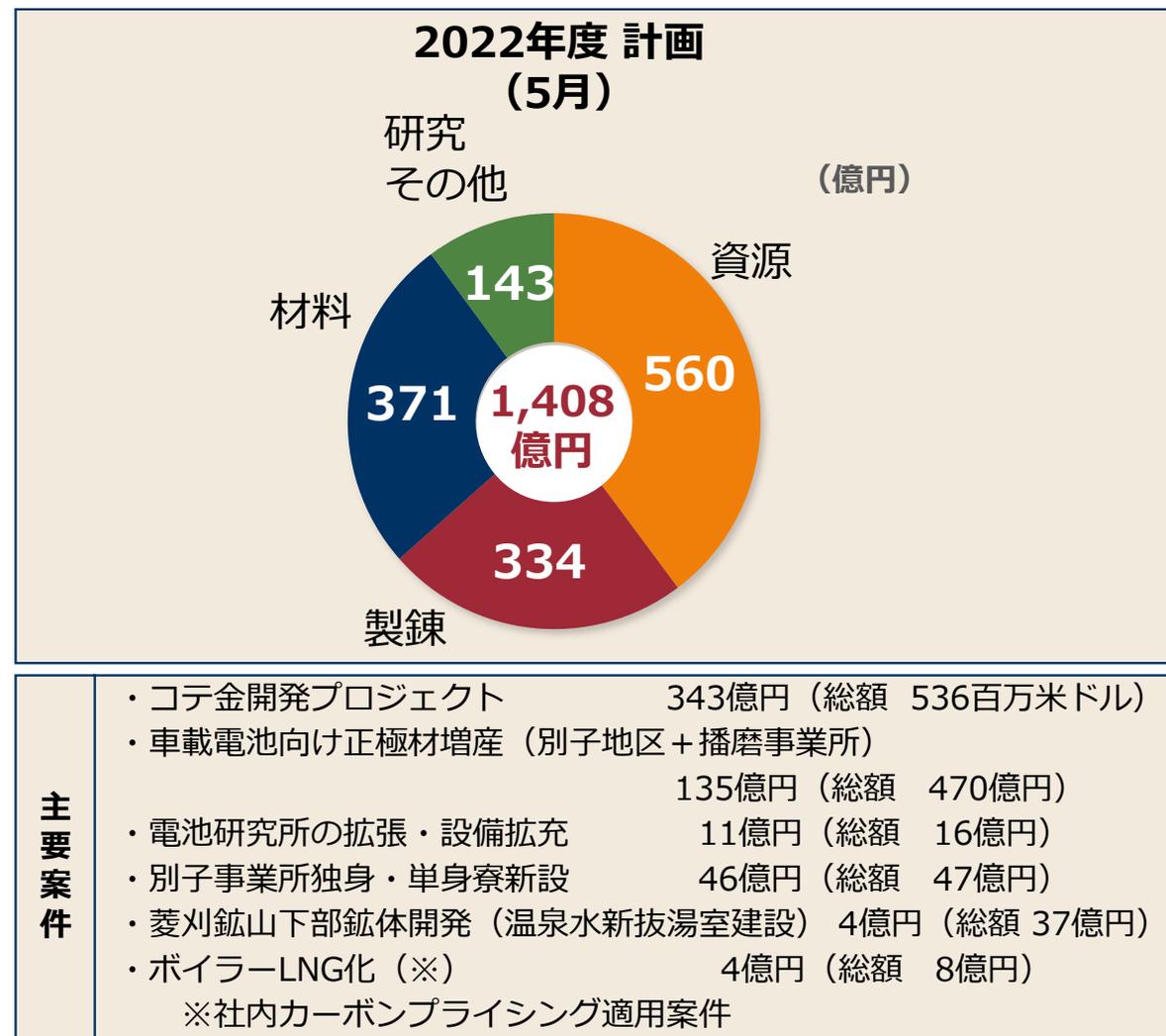
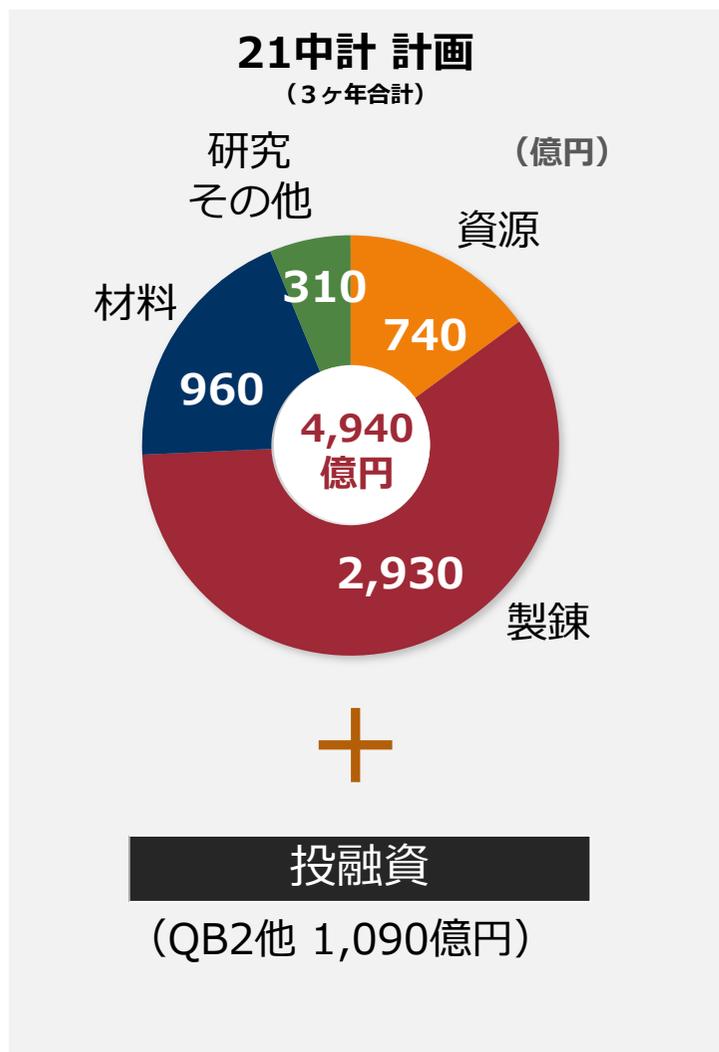
2021年度 計画
(5月)



2021年度 実績



7. 設備投資計画（2022年度）



8. キャッシュフロー（2021年度実績）



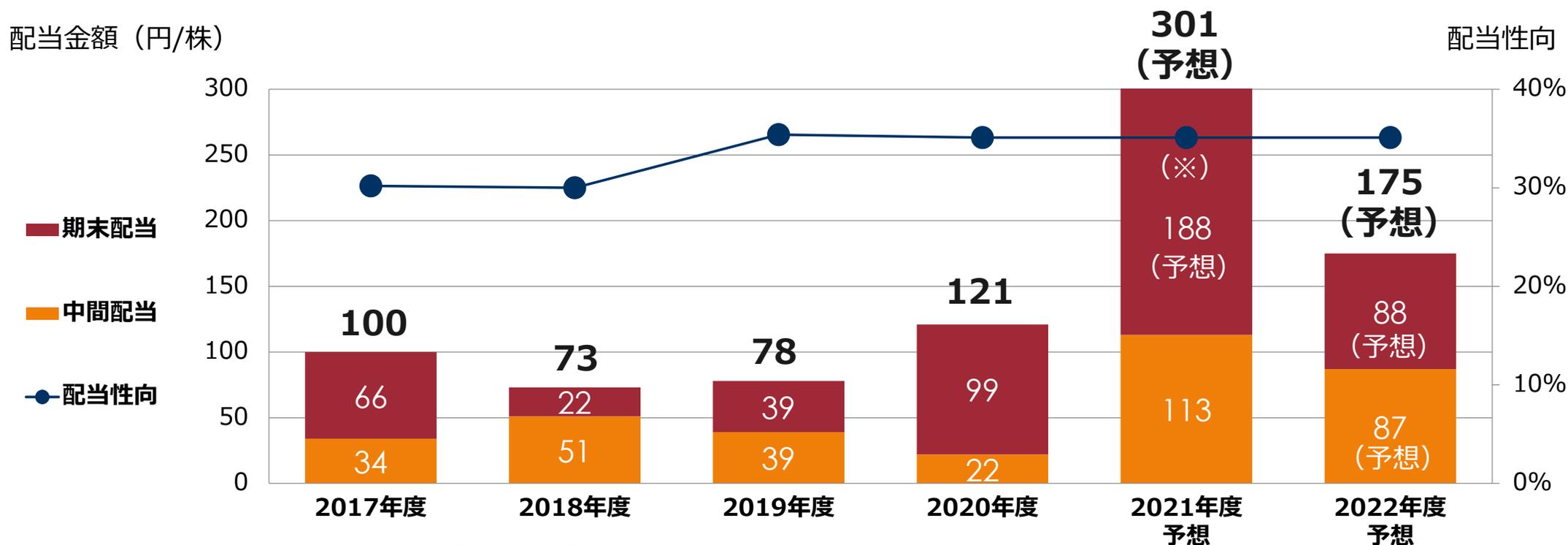
当期利益、円安影響によりキャッシュフローは好転

**中計に掲げた成長戦略を引き続き推進
今後の投資額増加に備え、手元資本を潤沢に**

9. 株主還元（配当予想：2021年度・2022年度）

＜21中計＞
配当性向 原則35%以上

一株当たりの配当金額
として過去最高



(注) 2017年10月1日付けで株式併合（2対1の割合）を実施したため、それ以前の1株当たり配当金は株式併合後の基準で算定・表示。

※2021年度の配当性向はシエラゴルダ譲渡に関する調整分を除いて算出

IV. 中長期戦略

I

重要課題の振り返り

II

2022年度展望（トピックス）

III

2021年度業績および2022年度業績予想の概要

IV

中長期戦略

V

計数・資料編

1. 18中計振り返り 1) 18中計3大基本戦略の進捗と課題

18中計3大基本戦略

① コアビジネス（資源、製錬、材料）の成長基盤強化

成長戦略の着実な推進&早期戦力化：「攻めの投資」

逸失利益・機会損失の極小化と事業基盤の基礎固め：「守りの投資」

② 電池向け正極材を軸とした3事業連携の強化

一貫生産体制の強みを最大限に活かし、電池リサイクルを含めた総合力で勝つ

③ コーポレート機能の強化

社内外のステークホルダーとのコミュニケーション活性化

自由闊達な組織風土の再構築

- ・ QB2, コテプロジェクトは順調に進捗
- ・ ポートフォリオ入れ替えに伴いシエラゴルダ鉱山売却を決定
- ・ ポマラプロジェクト：事業化検討の中止決定

- ・ 2021年に電池新工場建設を決定（完工は21中計期間に）
- ・ 銅・ニッケル・コバルト・リチウムを再資源化する能力を備えた新リサイクルプロセスを確立

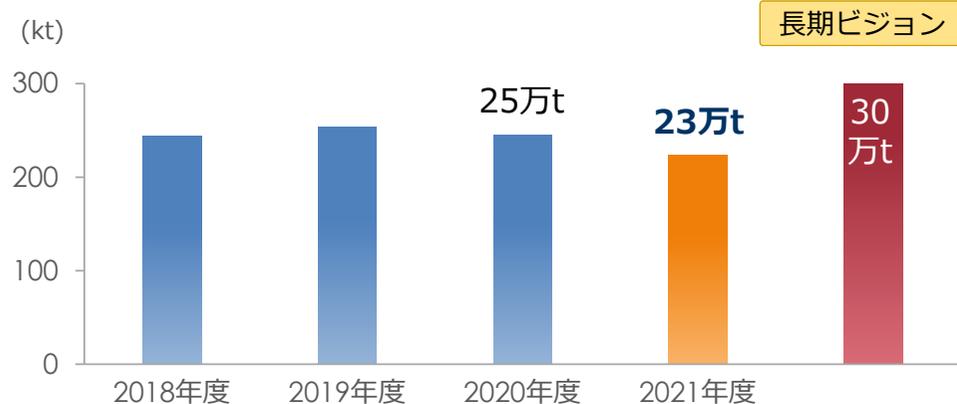
- ・ 組織再編により、事業環境変化への対応力を強化
- ・ 本社リニューアルによる組織風土再構築
- ・ 対機関投資家向けSR活動を強化

コロナ影響もあり
進捗は道半ば

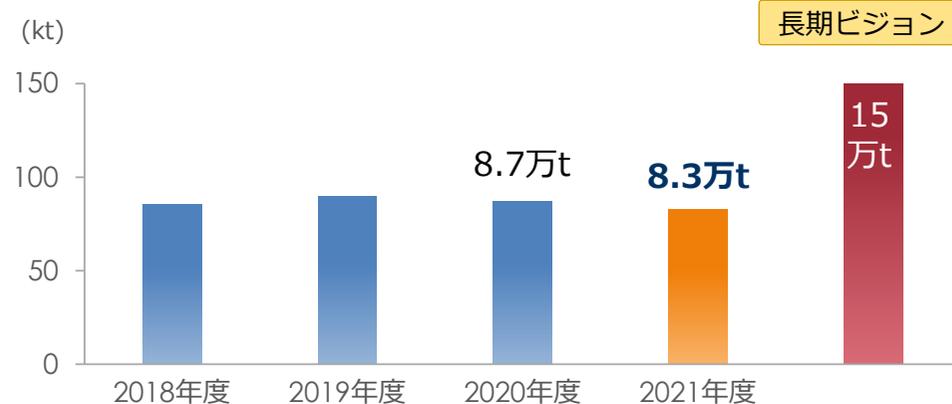
➔ 21中計で変革へ向け
チャレンジ

1. 18中計振り返り 2) ターゲットに向けた達成状況

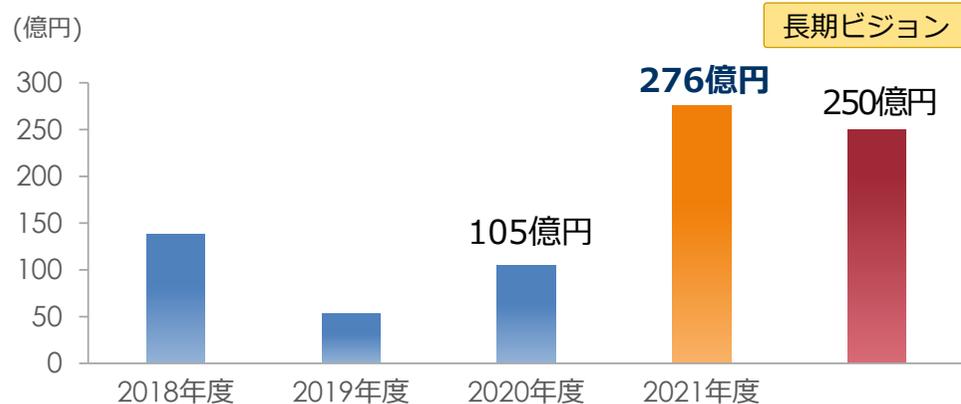
Cu (鉱山権益分生産量)



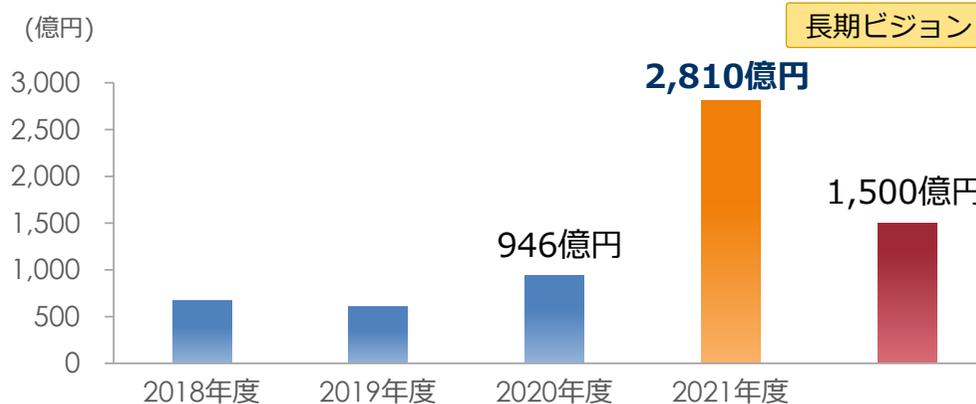
Ni (年間生産量) ※長期ビジョンは生産能力



材料事業 (セグメント利益)



当期利益 (親会社の所有者に帰属する)



1. 18中計振り返り 3) ありたい姿実現に向けた取り組み

気候変動

- ◆2021年度統合報告書でTCFD分析を開示
- ◆カーボンニュートラルに向けた計画策定開始

非鉄金属資源の有効活用

- ◆電池リサイクルの実証化完了

従業員の安全・衛生

- ◆18中計目標には大きく未達

先住民の権利

- ◆独自に作成した教育動画を用いて、国内外全拠点での受講を終了

サプライチェーンにおける人権

- ◆コバルトを生産する精錬所での第三者監査受審完了

《変革への試行》

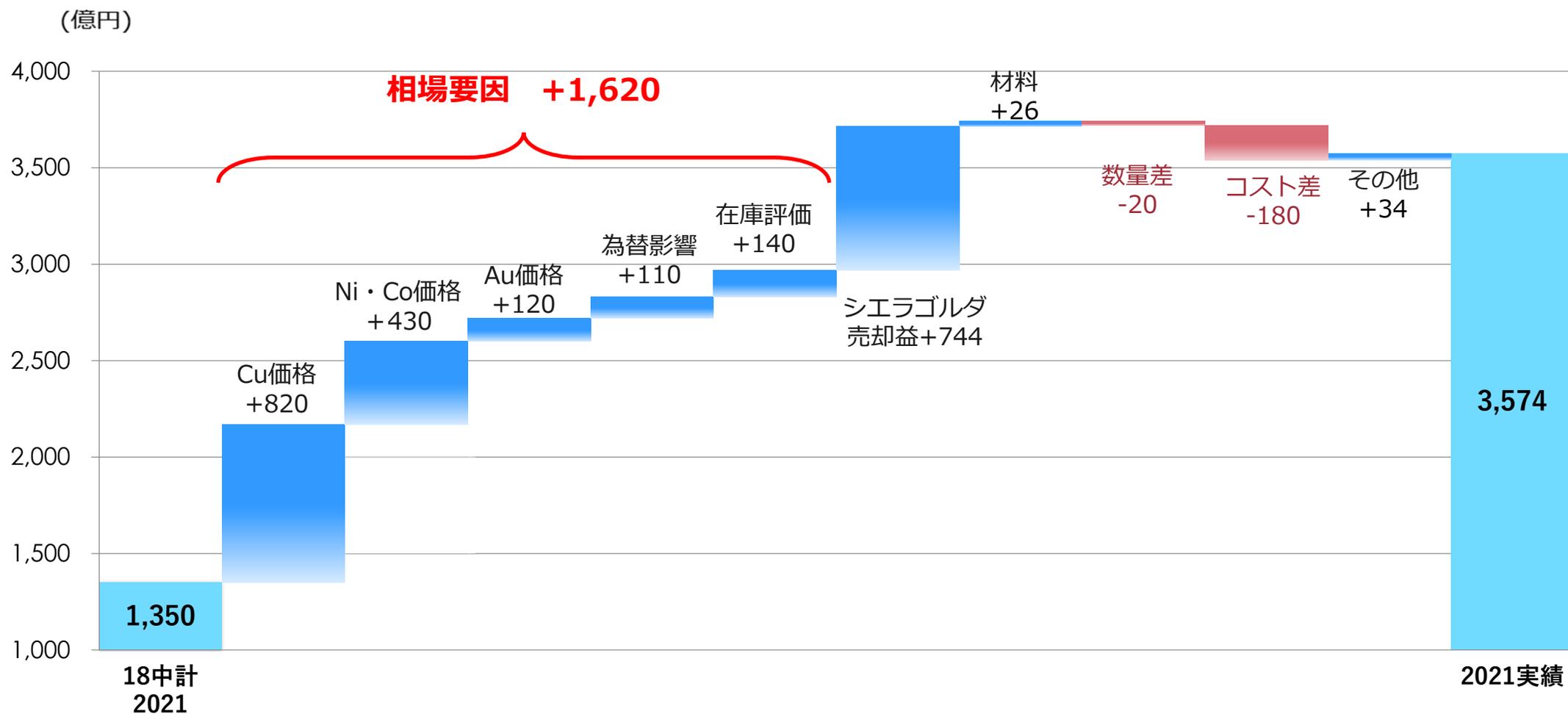
式年改革、会議運営変革、
本社オフィスリニューアル

- ✓ 分野により進捗には濃淡
- ✓ 21中計では引き続き「ありたい姿」に向けた取り組みを強化

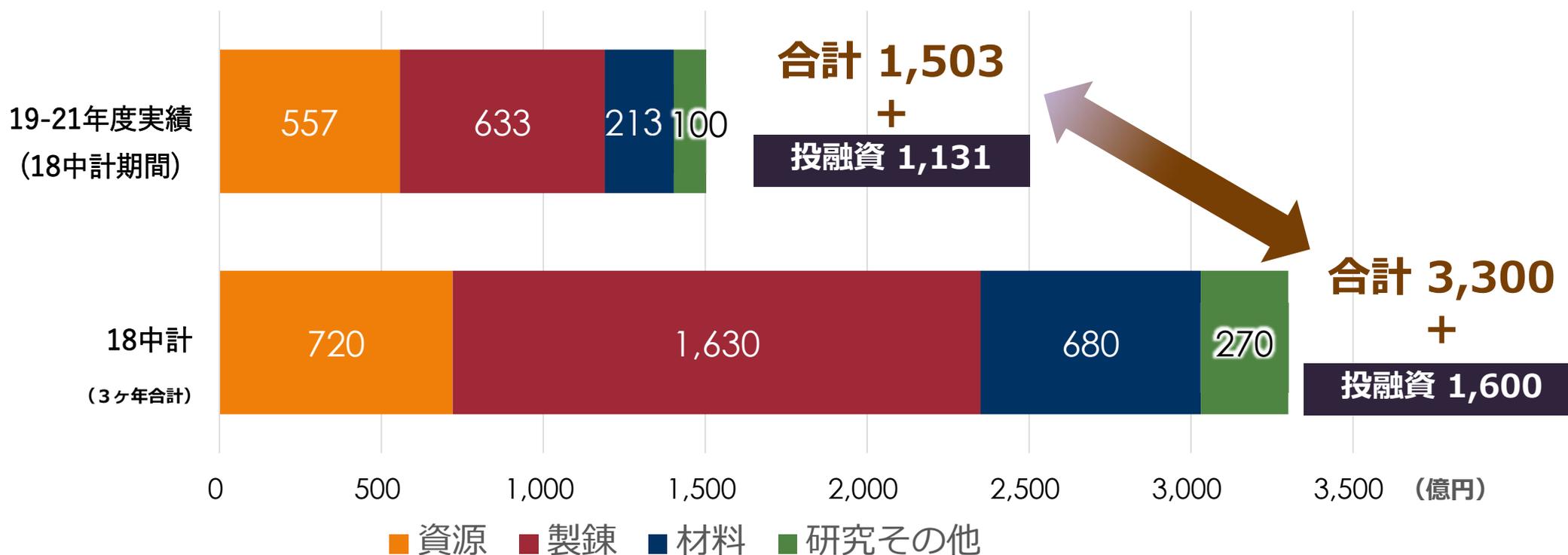
1. 18中計振り返り 4) 2021年度業績 vs 18中計2021年度試算

(億円)		2021年度実績 (A)	18中計2021年度 試算 (B)	増減(A)-(B)
売上高		12,591	10,500	+2,091
税引前損益		3,574	1,350	+2,224
内 持分法投資損益		575	270	+305
セグメント利益	資源	2,085	470	+1,615
	製錬	1,148	650	+498
	材料	276	250	+26
	その他/調整額	65	-20	+85
親会社の所有者に 帰属する当期利益		2,810	970	+1,840
銅 (\$/t)		9,691	6,500	+3,191
ニッケル (\$/lb)		9.35	7.00	+2.35
金 (\$/toz)		1,818	1,300	+518
コバルト (\$/lb)		27.46	27.50	-0.04
為替 (¥/\$)		112.39	105.00	+7.39

1. 18中計振り返り 5) 税前損益分析 2021年度実績 vs 18中計2021試算



1. 18中計振り返り 6) 設備投資・投融資実績 (18中計期間 比較)



**QB2プロジェクトにおけるプロジェクトファイナンスの活用、
ポマラプロジェクトの未実施、電池新工場の遅れ等で、進捗率は約45%**

1. 18中計振り返り 7) キャッシュフロー (3ヶ年累計実績)

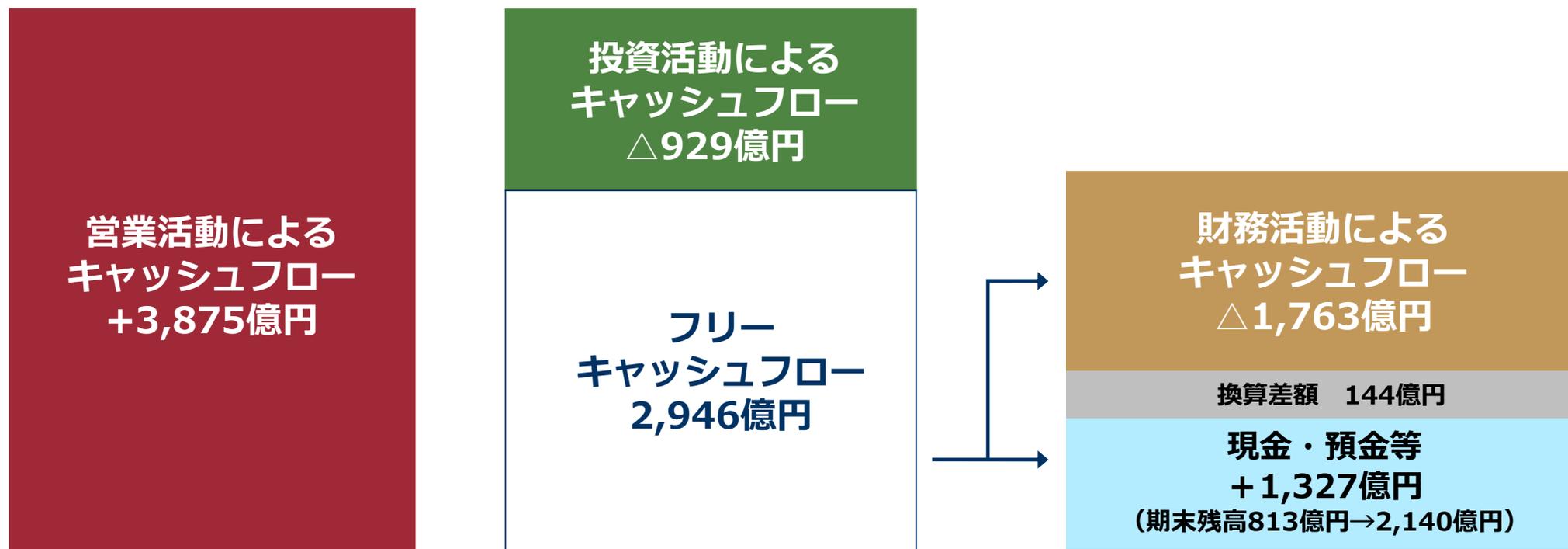
18中計期間内のキャッシュフロー

金属価格上昇による利益の好転
シエラゴールド鉱山の売却益

投資活動は計画比で大幅減



キャッシュフローは大幅好転



2. 21中計 4つの挑戦

4つの挑戦

挑戦1. 企業価値拡大 -大型プロジェクトの推進

- 電池材料（正極材）生産能力増強
- ~~ポマラプロジェクト~~
- ケブラダ・ブランカ2プロジェクト
- コテ金開発プロジェクト

挑戦3. 社会環境変化への適応

- GHG（温室効果ガス）排出量削減
- カーボンニュートラルに貢献する製品・新技術・プロセスの開発推進
- DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応
- 人材確保・育成・活用への取り組み

挑戦2. コアビジネスの持続可能性向上

- 3事業連携（ニッケル-電池）のバリューチェーン強化
- 菱刈鉱山のサステナビリティ重視の操業への転換
- 銅製錬事業の競争力強化
- 機能性材料事業の拡大戦略

挑戦4. 経営基盤強化

- 安全への取り組みの強化
- サステナビリティ施策の推進加速
- コーポレートガバナンス

電池材料（正極材）生産能力増強

◆ +2,000t/月増産（～25年度）

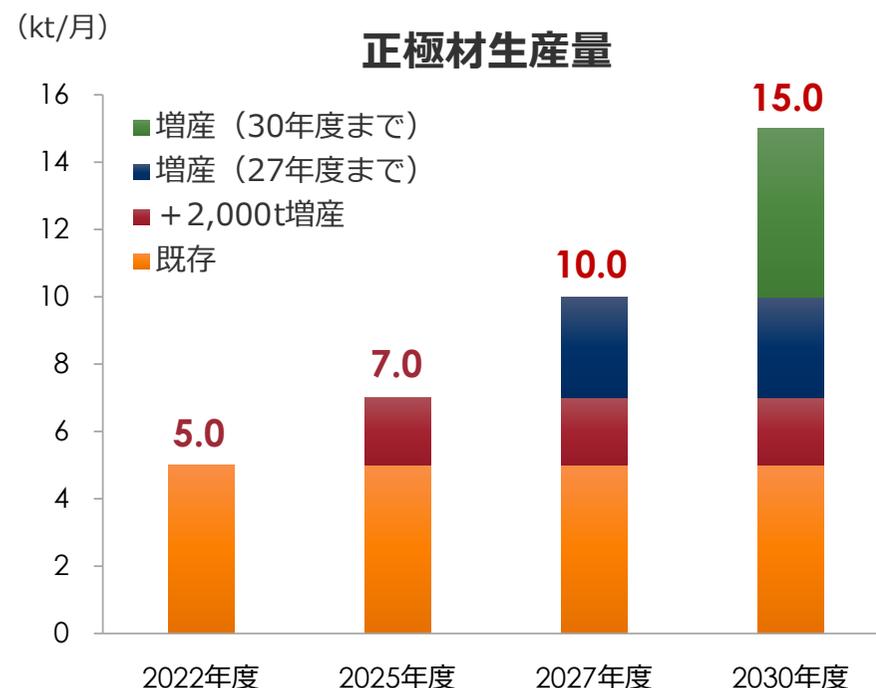
新居浜新工場の建設を推進中
DXによる生産性向上、省力化

◆ LFP事業の譲受

5月1日付で譲受実施、当社名での生産に移行
高品質製品の安定生産販売に努めるとともに、
次世代に向けた研究開発を強化

◆ 次期増産に向けて

各国政策の影響により、需要動向は地域により異なる
次期増産は立地を含めて検討中



ケブラダ・ブランカ2 (QB2) プロジェクト

- ◆ 2022年後半 生産開始予定
- ◆ 建設進捗は80%超
足元では建設人員12,000名超を動員
- ◆ Mill Expansion
さらに下部の開発に向け、選鉱場増設の計画有



Côte (コテ) 金開発プロジェクト

- ◆ 2023年 生産開始予定
- ◆ 設備投資額については、コロナ禍やウクライナ情勢の影響を受け増加傾向であり、現在精査中
- ◆ 周辺鉱区の探鉱により新たな資源量を確認
 - ➡ 将来の新規開発によるプロジェクト価値の向上へ



3事業連携（Ni-電池）のバリューチェーン強化

ニッケル資源確保と3事業連携強化策を展開

- ◆ 次期ニッケル新プロジェクト探索の強化
- ◆ CBNC、THPAL鉱量確保対策
- ◆ 電池リサイクルの設備設計本格化

菱刈鉱山（サステナビリティ重視の操業への転換）

- ◆ マインライフ延長に向けサステイナブルな生産体制へ
平均品位採掘を基本とする

2022年度生産量 4.4t/年

- ◆ 下部鉱体開発を推進中



銅製錬事業の競争力強化

- ◆電気銅450千t/年安定操業
2022年度生産計画は 447千t
- ◆精鉱品種変更への対応強化と
コスト削減、収率向上取り組みの継続
- ◆21中計期間中に460千t/年体制確立



機能性材料事業の拡大戦略

- ◆需要は引き続き安定した水準を見込む
- ◆21中計で掲げた各製品の拡販・生産強化に向けた各種施策を実施



1) カーボンニュートラル

**GHG（温室効果ガス）排出量削減に向け、GHG排出量を2013年度以下に抑え、
"2050年までにGHG排出量ネットゼロ"**に向けた計画を策定し、諸施策を推進

- ・ TCFD提言に基づく情報開示を統合報告書で実施
- ・ 設備投資において、ICP（社内カーボンプライシング）制度を適用し、GHG削減投資を推進
- ・ 各種CN貢献新製品、リサイクル技術開発を推進

2) DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応

- ・ DX推進部門を立上げ、全社的なDXを加速
 - ➡DX活用により競争力を高め、ありたい姿達成に向けた施策展開の基盤を整える
- ・ 社内各部門のデジタル化意識の向上
 - 各種社内事例の共有化等により、作業のDX化に向けた意識づくりを実施

3) 人材確保・育成・活用への取り組み

確保：広告展開等のブランディング強化
キャリア採用の拡大

育成：1on1ミーティングの展開加速

活用：各種制度・手当等の見直し開始（一部実施）

本社オフィスリニューアル・部門間コミュニケーションの強化

人材への積極的な投資により
企業活力を活性化

拠点間オンラインコミュニケーションの拡大に加え
各種Face To Faceの取り組みの再開

安全への取り組み

「重篤災害」（休業3ヶ月以上）の防止に重点 加えて「繰り返し災害」の防止に注力

- ① 重篤災害リスク（可動部、墜落・転落、重量物、重機）に重点を置いた設備対策・本質安全化の推進
- ② 「作業観察」「実践的RA（リスクアセスメント）」による現実のチェック・アクションの強化と、重点志向の取組などによる現場管理力向上
- ③ より効果的な教育訓練の導入・展開による危険感受性向上（VRなども活用した体感訓練等）

21中計期間 目標

- ✓ 国内外社員・協力会社 重篤災害**ゼロ**
- ✓ 国内社員災害 **7件/年**以下
- ✓ 海外事業場社員災害 **1件/年**以下

挑戦4. 経営基盤強化 2) サステナビリティ施策の推進加速

21中計

サステナビリティ推進組織 (2022年4月)

■ = 新組織
赤字 = 新名称



◆ 取締役会実効性評価

2021年度は法律事務所の協力を得てアンケート実施

- ・ 高評価の回答がされており、概ね取締役会は実効的に機能しているとの意見
- ・ 当社が目指す取締役会の役割・機能の在り方について、変化する必要がある旨の回答あり、改善に向けた取り組み実施

◆ 監査役会実効性評価

2021年度初めて実施 外部監査法人が分析・評価、監査役会で議論
十分に実効性を有していると評価

◆ スキル・マトリックス

コーポレートガバナンス報告書で開示
各取締役のスキルの充足の目安を策定、マネジメントモデルを原則とする当社のガバナンスに
貢献できる項目を取締役会で議論

V. 計数・資料編

I

重要課題の振り返り

II

2022年度展望（トピックス）

III

2021年度業績および2022年度業績予想の概要

IV

中長期戦略

V

計数・資料編

1) 需給動向（銅、ニッケル）

銅

	ICSG予測(May 2022)		
(kt)	2021	2022	2023
Production	24,825	25,883	26,826
Usage	25,264	25,742	26,474
Balance	-439	+142	+352

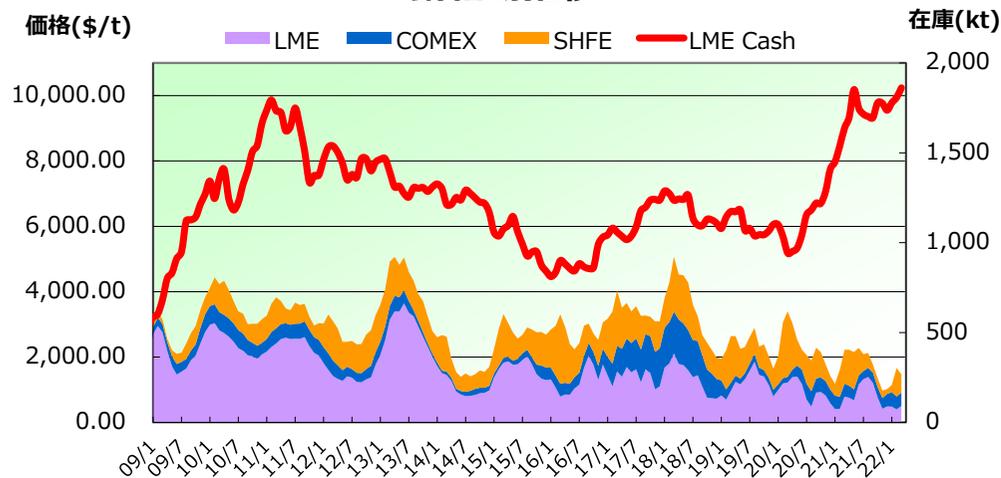
ニッケル

	INSG予測(Apr 2022)			当社予測(Feb 2022)		
(kt)	2020	2021	2022	2020	2021	2022
Production	2,490	2,608	3,082	2,504	2,631	2,931
Usage	2,390	2,776	3,015	2,390	2,766	2,999
Balance	+99	-168	+67	+114	-135	-68

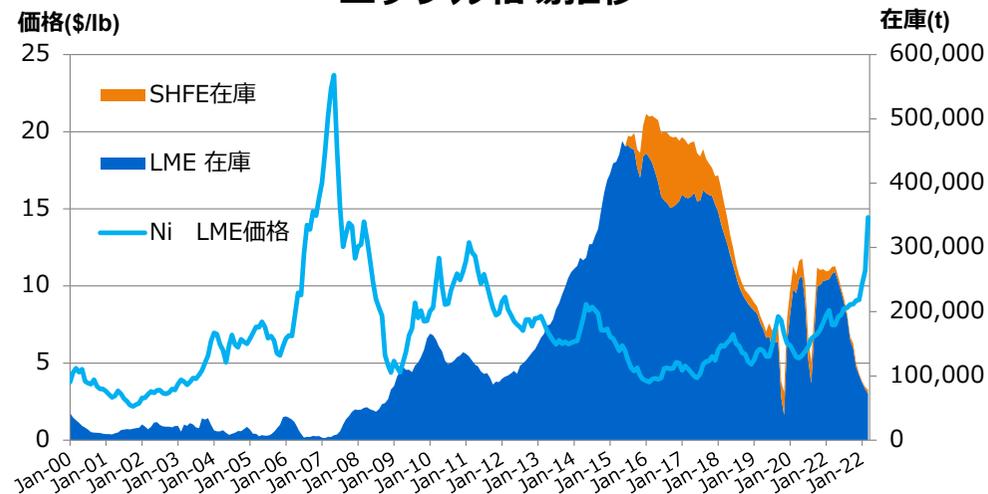
2) 非鉄金属・為替相場

計数・資料

銅相場推移



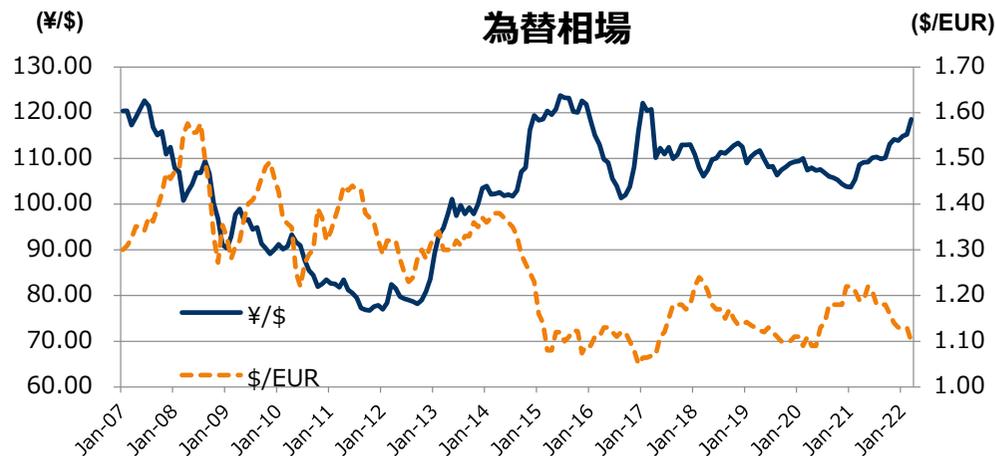
ニッケル相場推移



金相場推移



為替相場



3) 個別事業の状況等 資源① 銅 (海外操業銅鉱山)

計数・資料

モレンシー銅鉱山 (米国)

権益比率	FCX	72%
	SMM	25%
	住友商事	3%



- 生産量 2021年度 397kt (実績)
- 2022年度 437kt (計画)



セロベルデ銅鉱山 (ペルー)

権益比率	FCX	53.56%
	SMM	16.80%
	住友商事	4.20%
	その他	25.44%



- 生産量 2021年度 402kt (実績)
- 2022年度 451kt (計画)

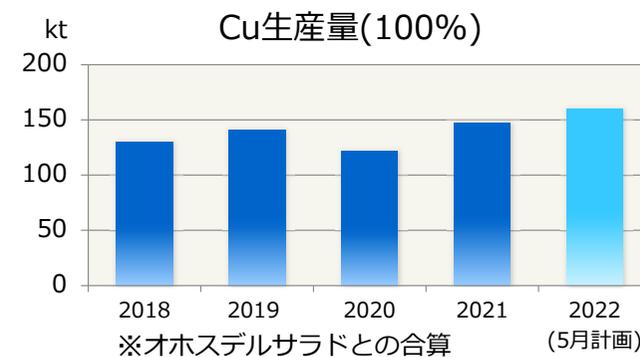


カンデラリア銅鉱山 (チリ)

権益比率	Lundin	80%
	SMM	16%
	住友商事	4%



- 生産量 2021年度 146kt (実績)
- 2022年度 160kt (計画)



3) 個別事業の状況等 資源② 金 (菱刈・コテ)

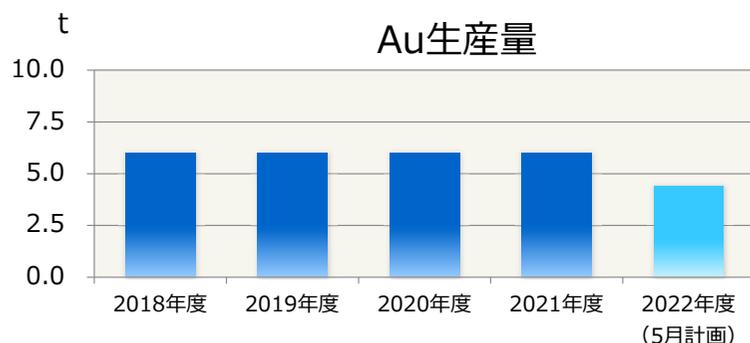
計数・資料

菱刈鉱山 (鹿児島県)

権益比率 SMM 100%



- ・ 下部鉱体開発 保安第一で継続
- ・ 可採金量 2021年末 157t (JIS基準)
- ・ 生産量 2022年度 4.4t (5月計画)



コテ金鉱山開発PJ. (カナダ)

権益比率 IAMGOLD 64.75%
SMM 27.75%
その他 7.50%

取得金額: 195 百万米ドル (約 215 億円)
所在地: オンタリオ州

- ・ 2018年11月にF/S完成
- ・ 2020年8月より建設開始
- ・ 2023年より生産開始予定



マインライフ	18年
総生産金量	205t
可採鉱量	233Mt
可採品位	0.96g/t

(2020年7月21日プレスリリースより)

3) 個別事業の状況等 製錬① 銅 (東予工場)

計数・資料

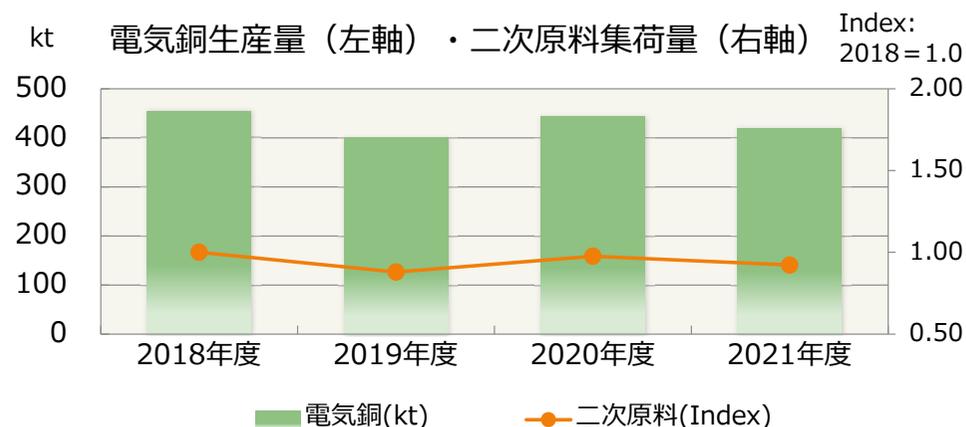
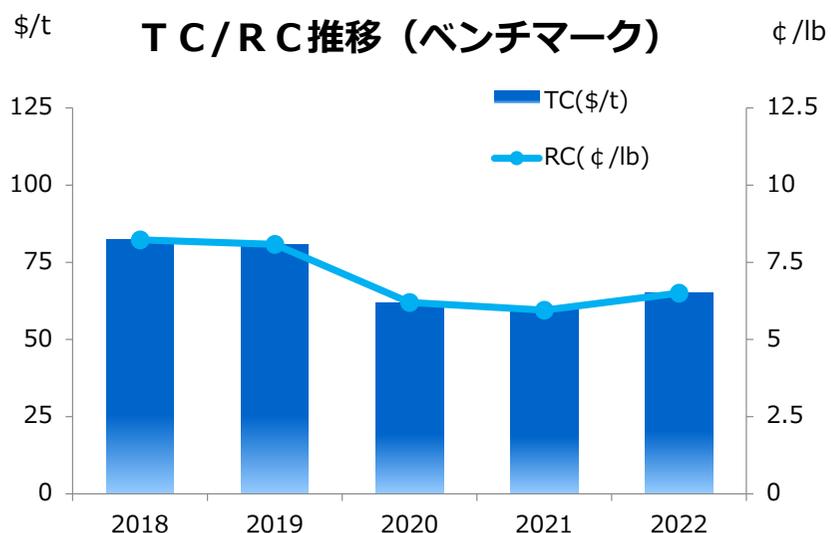
東予工場

電気銅 生産量

2021年度 419 kt (実績)

2022年度 447 kt (5月計画)

※2021年度は定期休転を実施



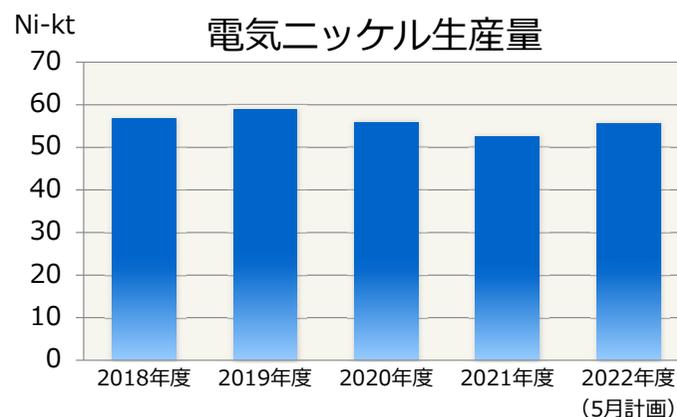
3) 個別事業の状況等 製錬② ニッケル (CBNC・THPAL・ニッケル工場)

計数・資料

CBNC、THPAL、ニッケル工場

生産量

(Ni-kt)	2021年度 実績	2022年度 (5月計画)	増減
CBNC	18.1	20.0	+1.9
THPAL	24.8	32.2	+7.4
ニッケル工場	52.5	55.6	+3.1



HPAL副産品回収の最大化

酸化スカンジウム：
2019年より商業生産開始

クロマイト：
2021年度より販売開始

3) 個別事業の状況等 製錬③ 硫酸ニッケル (ニッケル工場・播磨事業所)

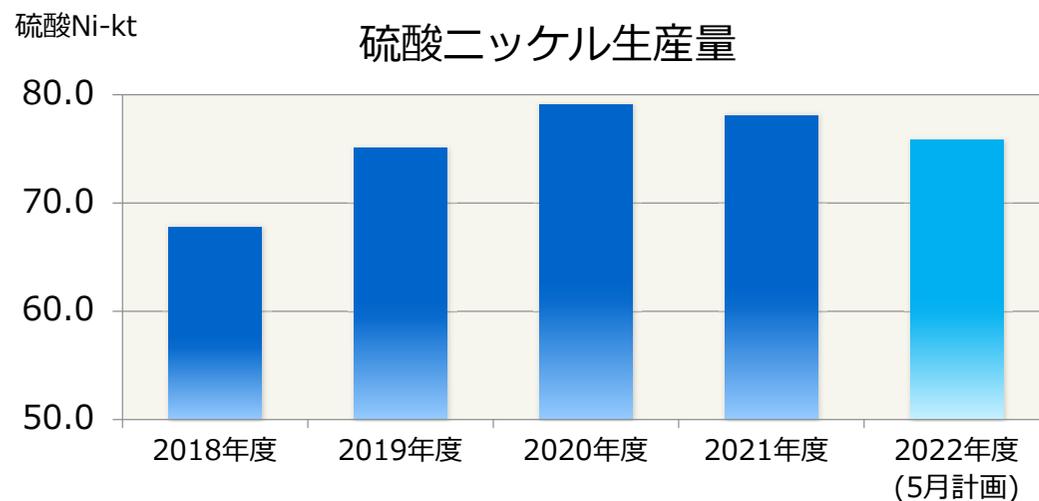
計数・資料

ニッケル工場、播磨事業所

硫酸ニッケル生産量 (ニッケル工場と播磨事業所の合計)

2021年度 78.1 kt (実績)

2022年度 75.8 kt (5月計画)



3) 個別事業の状況等 製錬④ フェロニッケル（日向製錬所）

計数・資料

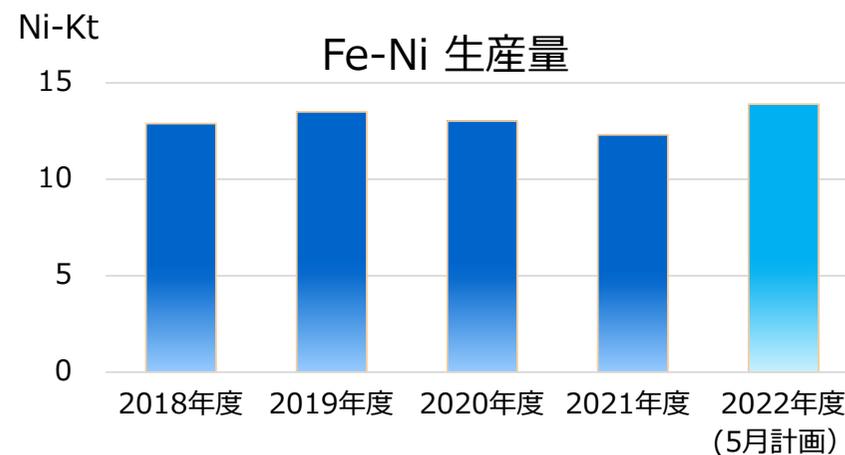
日向製錬所

生産量

2021年度	12.3Ni-kt（実績）
2022年度	13.9Ni-kt（5月計画）



- 2キルン－1電気炉体制下における生産量最大化を図る
- 安定生産と効率操業によりコストダウンを図り、収益を確保する



3) 個別事業の状況等 材料

計数・資料

電池材料

NCAは生産能力を4,850t/月に引き上げている。xEV関連市場は引き続き好調で、生産は順調。ただし半導体等不足の影響について注視していく。

粉体材料

2021年度後半はスマートフォン需要一服などの影響がありやや低調に。中長期的には自動車の電装化やスマートフォンの5G化により需要増を見込んでいる。

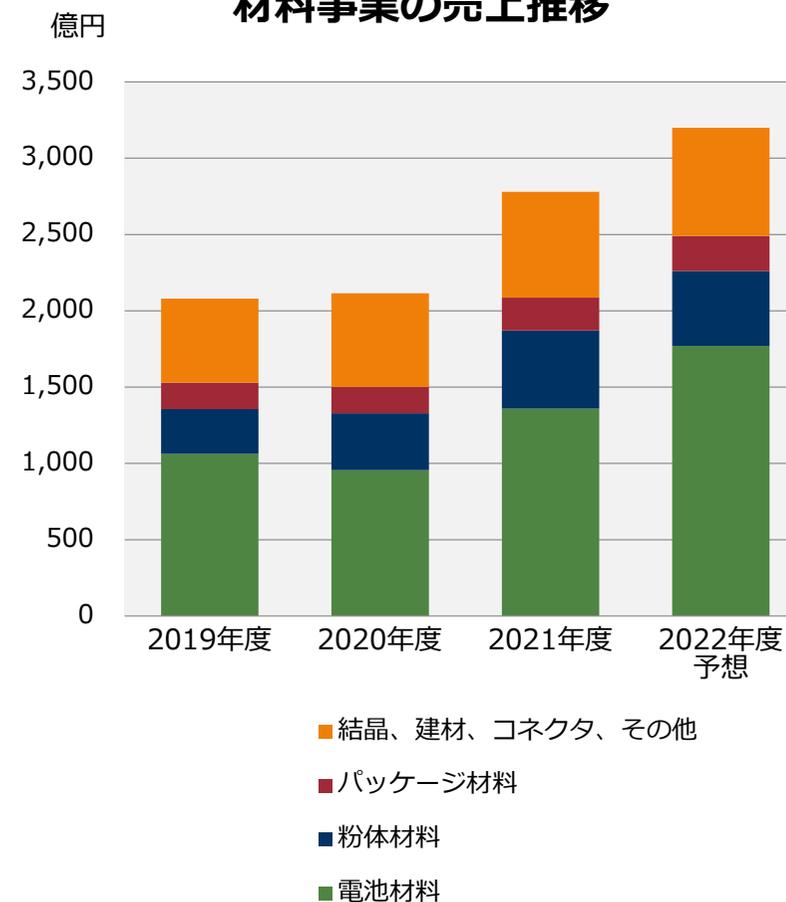
結晶材料

スマートフォンはやや減速化傾向。通信デバイス市場では長距離向けの需要回復が出始めている。

パッケージ材料

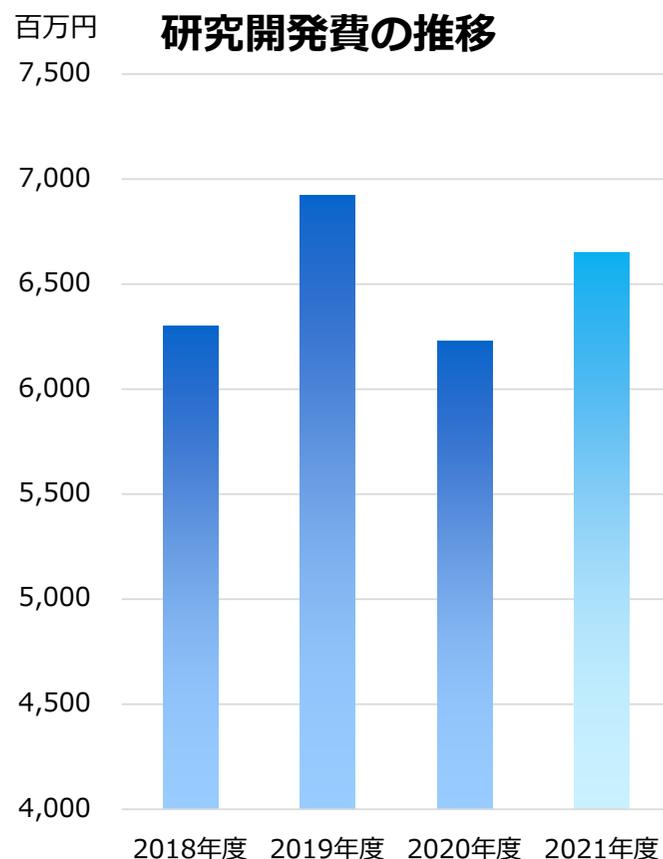
2021年度は高い出荷水準を維持。2022年度はディスプレイパネルなどで一服感が出る見込みも、全体としては高い水準を維持。

材料事業の売上推移



3) 個別事業の状況等 研究開発①

計数・資料



材料事業(マテリアル開発)

【電池材料】

- さらなる高性能電池正極材料の研究開発
- 全固体電池への対応

【結晶材料】

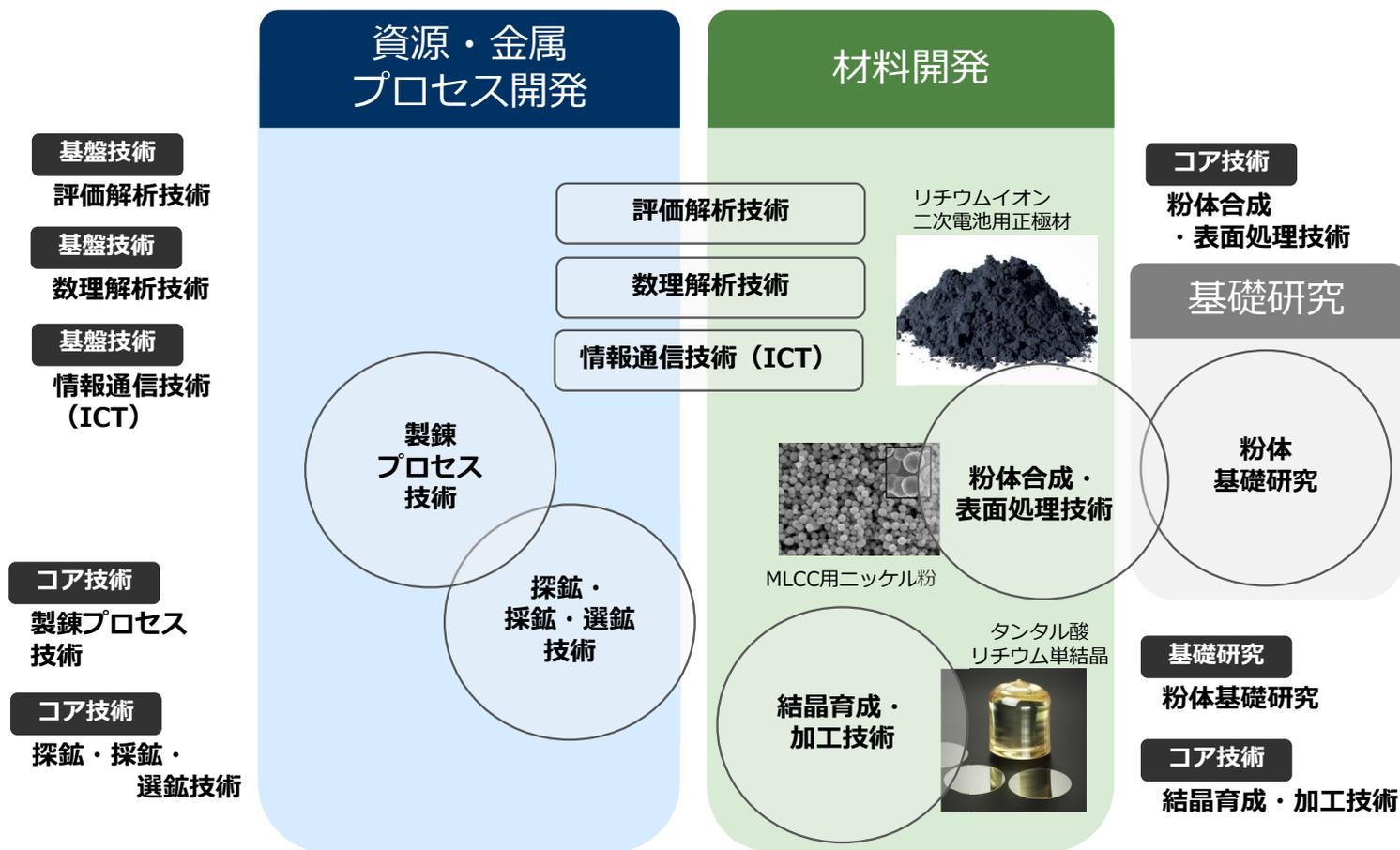
- コモディティー化に先行したコスト低減
結晶の長尺化・大口径化および結晶育成・加工収率の向上等による生産性向上を達成
- 新たなユーザーニーズへの対応
大口径LT結晶育成技術を確立し、ユーザーワーク中

製錬事業 (プロセス開発)

【リチウムイオン電池リサイクル】

- 銅・ニッケル・コバルト・リチウムを再資源化する能力を備えた
新リサイクルプロセスを確立

3) 個別事業の状況等 研究開発② 領域・分野



成長戦略分野に集中、次世代事業の“種”の探索

4) 感応度試算

計数・資料

(億円)

要素	変動幅	2022年度 税引前利益
Cu	±100\$/t	26
Ni	±10¢/lb	17
Au	±10\$/toz	2
円/\$	±1円/\$	22

(注) 円/\$ は国内の金属加工収入および海外換算為替差の合計

ご注意

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。

したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

住友金属鉱山株式会社



<https://www.smm.co.jp/>

